令和元年度　島田市立島田第二中学校

二中だより　6月号

☆校訓　文化の薫る学校

☆学校教育目標　「こころざしを持ち　自分の道を切り拓く生徒」

☆合い言葉　「　愛　・　自治　」

令和元年５月３１日　発行

校訓「文化の薫る学校」

島田市立島田第二中学校長　池谷　英人

５月は各学年とも大きな行事を終えることができました。いよいよ６月！学習や部活動などにじっくり取り組めるステージに入ります。

さて、今月は「和風月名」で言いますと「水無月」になります。実際は、旧暦は１か月ほどの誤差がありますので、６月上旬は、まだ、「皐月（早苗を植える）」に値します。また、古代中国をルーツとする二十四節気では、６月６日が芒種(穀物の種をまく季節)、22 日が早くも夏至となります。更に日本では気候に合わせ、土用、八十八夜、入梅、二百十日などの「雑節」と呼ばれる区分けが取り入れられています。

先月、日本の歴史・文化で大きなことがありました。新しい元号「令和」が施行されたことです。中国から伝わった元号は 645 年の「大化」から始まり、元々の中国では途絶えても、日本では伝統文化と融合し、形を変えながら脈々と受け継がれています。

島田二中の校訓「文化の薫る学校」の中の「文化」という言葉について、18 世紀のイギリスの学者は「文化とは人間の精神面での向上を示す言葉」として位置づけています。また、19 世紀アメリカの文化人類学者で名著「菊と刀」で有名なルース・ベネディクトは、「文化とは、通常、集団内で伝播されるものに対してのみ用いられ、個人がただ発明しただけの状態で適用されることはない」と語っています。すなわち、島田二中の「文化」も、「生徒達の中で延々と伝播され、更に生徒としての精神面での向上を示すもの」と言い換えることができます。一言で言ったらそれは「教養」とか「向上心」と言えるのかも知れません。

最近、本屋へ寄ると「教養(リベラルアーツ)」を学ぶことの重要性を説いたビジネス書が多く見られます。変化のスピードが激しい現代においては、目の前の事象に翻弄されることなく、その背後に流れる、物事の本質を捉える目が重要になってきています。それを磨くことができるものとして、「文化（＝教養)」があると言えるでしょう。